

「ここまで進んだ建物の総合耐震と都市の防災」

2008 年 6 月 14 日岩手・宮城内陸地震、2008 年 7 月 24 日岩手県沿岸北部地震
日本建築学会東北支部災害調査概要報告書 無料配布(予定)

■主催：日本建築学会東北支部





■日時：2008 年 11 月 6 日(木)10:00~12:00

■会場：夢メッセ MIYAGI (仙台市宮城野区港 3-1-7) 会議棟 1 階 B 会場


■定員：100 名(申込先着順)

■内容：1978 年宮城県沖地震 30 周年に際し、地震災害軽減のために日本建築学会の各分野がこれまでに果たしてきた役割と残されている課題について、学会員だけでなく一般市民にもわかるようにパネリストから基調報告して頂き、基調報告内容に基づいた総合討論を展開する。パネリストは、建築構造、非構造・建築設備、ブロック塀、文化財・歴史的建造物の分野から下記の 4 名です。

■パネリスト

<p>小林 淳 秋田県立大学教授兼システム科学技術学部長</p> <p>繰り返される地震被害を教訓として、数多くの研究の積み重ねを基に現在の耐震設計法が構築されてきた。世界的にも最高水準にあるとされている現行の耐震設計基準の考え方と、実務における耐震設計の概要を紹介しながら、市民としての心構えについて考えてみたい。</p>	
<p>渡辺 浩文 東北工業大学工学部建築学科 教授</p> <p>建築設備等非構造部材による地震被害の影響が着目され始めている。本講演では、日本建築学会東北支部環境工学部会など関連学協会による被害調査結果を報告するとともに、これら設備等による震災軽減を目的とした宮城県既存建築物地震対策推進協議会設備等地震対策 WG による活動を紹介する。</p>	
<p>最知 正芳 東北工業大学工学部建築学科 准教授</p> <p>宮城県沖地震から 30 年が経過し、記憶が薄れがちとなってきている当時の災禍を振り返り、その後の地震による塀類の倒壊被害の実態、住宅地に存在するおびただしい数のブロック塀の現状などを紹介する。また、学会や行政の取り組み、研究の現況を述べ、地域に潜む形で存在するそれらの危険性とその対策について再考する。</p>	
<p>月舘 敏栄 八戸工業大学 教授</p> <p>東北地方の歴史的震災における被害と対策や最近の被害事例を踏まえながら、文化財や歴史的建造物における災害対策の課題について報告する。</p>	

■コーディネーター

<p>源栄 正人 東北大学大学院工学研究科災害制御研究センター長 教授</p> <p>日本建築学会東北支部災害調査連絡会委員長として、迫り来る次の宮城県沖地震に向けた建築分野内における学際連携研究のあり方、または学際連携に基づいた新しい災害調査のあり方、調査体制の構築などについて、フロアーの一般参加者もまじえて総合討論を行う。</p>	
---	---

■申込み方法

第 3 回震災対策技術展仙台会場のシンポジウム・セミナーの参加申込のウェブページ(下記)を利用して頂ければ、ウェブ上で参加申込の手続きを簡単に行うことができます。本シンポジウム欄にチェックを入れ、お名前等の必要事項を入力して下さい。ご不明な点は東北大学災害制御研究センターの佐藤(TEL 022-795-7509)までご連絡願います。また、日本建築学会東北支部事務局(TEL 022-265-3404)でも参加申込を受け付けています。

参加申込の URL アドレス <http://www.exhibitiontech.com/etec/syotaiken.html>

参加無料